

としょかんの広場

『習志野市史』を読む

その3

『習志野市史 別編 民俗』(平成16(2004)年刊)は、習志野市の民俗に特化した資料です。私達の日々の生活も歴史の一部とし、市民への聞き取り調査や、現存する民俗史・資料に加えて、刊行済みの『習志野市史』をもとに編集されたものとなっています。



「別編 民俗」を読んでみましょう！

『別編 民俗』は、習志野市の古くからの生活や信仰、生業や社会のしくみから、現在までの民俗の変容と新しい暮らしの諸相を記した資料で、「チャドキ」「モシキ」「ヨムキ」など索引をたどるだけでも興味を惹かれます。

日常生活だけでなく、習志野市の特徴をあらわすものとして、軍隊の街としての生活と終戦後の街の変容、払い下げられた東習志野地区の開拓と入植者の生活や、谷津遊園とそれに関わる地元の人々の生活にも多くの頁を割いています。

例えば谷津遊園については、「谷津地区の住民は、様々な形で谷津遊園とかかわった。例えば、戦前には、映画村でエキストラとして出演した人が多かった。エキストラ料は一人当たり約80銭支払われる場合もあり、ちょっとしたアルバイトであった。戦後には、茶屋や売店の経営者が谷津在住という場合も少なくない。(中略)谷津遊園には東京から来る行楽客が多かったが、谷津の人たちも入って楽しんだ。(中略)よそからの客は入り口で入場料を払う必要があったが、地元の方は裏から自由に入出入りした。これは遊園側も黙認する慣習だったという。」(189頁)と記載されています。

この資料の中には今では失われてしまった風景や生活があり、掲載されている写真も多く、昔の習志野の姿を生き生きと目に浮かべることができます。



京成大久保駅 昭和40年代



谷津遊園

マ+知識

民俗？民族？



「民俗」と「民族」、どちらも同じ「みんぞく」と読みますが、どう違うのでしょうか。

習俗や伝承・技術などの庶民の習わしが「民俗」です。これに対し、言語や習俗・宗教等の文化や歴史を共有する集団を「民族」と言います。

はじめての読み聞かせ講座・おはなし会のすすめ方・

6月25日(土)に習志野文庫連絡会から講師をお迎えし、読み聞かせの大切さと読み聞かせに向く絵本を紹介していただきました。実技となり、講師がお手本に1冊読んでくださった後車座になって絵本の持ち方、ページのめくり方についてアドバイスをいただきながら実習しました。

参加した皆さんは、お互いの持ち方をチェックしながら積極的に意見を交わしていました。



夏休み子ども1日図書館員

夏休みの恒例行事である子ども1日図書館員を、7月28日・29日と8月18日・19日に開催しました。参加した小学生たちは普段は入ることのできない図書館の作業室や書庫を見学して目を輝かせたり、返却や書架整理では真剣な表情でひとつひとつ丁寧に作業をしてくれました。また利用者として図書館に遊びに来てくれることを願っています！

中央図書館カレンダー(色の付いた日が休館日です)

令和4年(2022年)9月						
日	月	火	水	木	金	土
				1	△2	3
4	○5	6	7	8	9	10
11	○12	13	14	15	16	17
18	19	○20	21	22	23	24
25	○26	27	28	29	30	

令和4年(2022年)10月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	○3	4	5	6	△7	8
9	10	○11	12	13	14	15
16	○17	18	19	20	21	22
23	○24	25	26	27	28	29
30	○31					

○の付いた日:全館休館日

△の付いた日:東習志野・新習志野・谷津は図書整理日のため休館
中央図書館は開館

祝日開館日:9月19日・23日・10月10日

振替休館日:9月20日・10月11日

★編集後記★

3回にわたってお送りした『習志野市史』の特集はいかがでしたか。

敷居が高いと思われがちな『習志野市史』ですが、読んでみると思いのほか読みやすく、面白く読み進められます。

これを機に、習志野の歴史への興味と愛着がさらに深まってもらえるとうれしいです。



中央図書館報 としょかんの広場
第14号(通巻98号)

発行日:令和4年9月1日

編集・発行:習志野市立中央図書館

電話:047-475-3213

<https://www.narashino-lib.jp>

